



大学生が知っておきたい基礎と最新事例

生成AI活用入門

本教材は CC BY-NC-SA 4.0（表示－非営利－継承 4.0 国際）で提供しています。

出典表示例：「生成AI活用入門（四国学院大学・2026）」

<https://creativecommons.org/licenses/by-nc-sa/4.0/deed.ja>

作成　： 四国学院大学

作成日： 2026年3月18日

目次—コンテンツの内容

- ① 生成AIとはなにか？
- ② 香川県での「実在AI活用」具体事例
- ③ どうやって使いこなすか—プロンプトの書き方
 - プロンプトの基礎
 - 理想的なプロンプト
 - 具体例と実践課題



導入—なぜAIについて学ぶのか？

- ▶ 生成AI = 文章や画像、音声、動画などを「生み出す」人工知能
 - あらゆる分野で活用が始まっている
 - 香川県が抱える「地域特有の課題」の解決策になる場合も
- ▶ 私たちの日常にも浸透
 - ex.Google検索で「AI要約」, PCやスマホにAIを搭載
 - 気がつかないうちに使用している
 - でも「生成AIの活用の仕方」はだれも教えてくれない
- ▶ だから、本教材で学習することは...
 - 生成AIとは何かを知って、よりよく活用する！



香川県での活用事例

▶ 観光案内をAIがサポート

- 小豆島坂手ポートターミナルに設置された「AIさくらさん」
- 多言語対応、フェリーの運行状況や観光情報を提供
- システム内部にChatGPTなどを搭載

参考：「AIさくらさん」が小豆島坂手ポートターミナルに導入 <https://www.tifana.ai/news/20250415>

▶ 県政において生成AIを業務利用

- 香川県では令和5年から全庁で生成AIを業務利用
- 県職員が内製したシステムからChatGPTにアクセス

参考：<https://www.pref.kagawa.lg.jp/digital/gyosei/seiseiai.html>

基礎知識：生成AIとは何か①

- ▶ AI（Artificial Intelligence）＝人工知能
 - 人間の「知的活動」をコンピュータで再現・代行する技術の総称
- ▶ 生成AIとは？
 - 画像や文章などを「何もないところから創り出す人工知能」
 - 「ChatGPT」「Gemini」「Claude」など

従来のAI

「正解が決まっている問題」が得意

人間がルールを細かく決める必要

例：

条件Aなら○、条件Bなら×

決められた選択肢から選ぶ

生成AI

正解が1つではない問題を扱える

「それっぽい答え」をデータから作成

例： 文章の下書き、キャッチコピー、 観

光案内文、会話文

技術的な基礎知識：生成AIとは何か②

▶ 生成AIの動作の2段階

①学習：大量のデータから「言葉の並び方のパターン」を覚える

②推論・応答：質問に対し「次に来る確率が最も高い要素」を出力

- 生成AIは「意味を理解して答えている」のではなく、「**確率的にもっともらしい文章の続きを計算**」している

▶ 生成AIが「学習」に使うもの

- 本・論文・記事・会話文、Webページ、
画像・写真、プログラムコードなど
- 人間が書いた（作った）大量のデータ



技術的な基礎知識：生成AIの学習①

- ① テキストの場合：文章 → 単語や文字に分解
- ② それぞれを数値（ID）に変換
 - 「香川 うどん 美味しい」 → [1023, 587, 8841]
 - この単位をトークン（token）と呼ぶ
- ③ ニューラルネットワークで関係性を学ぶ
 - 人間の脳神経を「非常に単純化」して数学モデルにしたもの



技術的な基礎知識：生成AIの学習②

④ ニューラルネットワークで関係性を学ぶ、の続き

- 生成AIは次の問いを何十億回も繰り返し学習
- 「この並びのあと、次に来やすいのは何か？」

例：香川の名物は...。：「うどん」が来る確率が高い

▶ 重要な生成AIに対する理解

- AIは「香川」「うどん」「名物」の意味を理解していない
- 理解しているのは「この単語の後には、この単語が来やすい」

→ 人間にとっての意味 ≠ AIにとってのパターン

技術的な基礎知識：どうやって応答するのか①

▶ 応答時に起きていること

① ユーザーが質問を入力 例：「生成AIとは何ですか？」

② 入力文をトークンに分解・数値化

学習済みモデルを使って「次に来るトークン(単語)の確率」を計算

③ 最も確率が高い（または適度にランダムな）トークンを選ぶ

④ 繰り返して文章を作る



技術的な基礎知識：どうやって応答するのか②

- ▶ なぜ「もっともらしい文章」が書けるのか
 - 学習した膨大な文章の「並び方のクセ」を極めて高精度に再現
 - 生成AIは丁寧な説明をそれらしく再現できる
 - ▶ なぜ生成AIは「平気で間違う」のか
 - 正しい答えを出すことではなく「自然な文章を作ること」
 - 事実確認が取れなくても「それっぽい答え」を出してしまう
- 「ハルシネーション」と呼ばれる現象
- ▶ 「間違った答え」をしないようにするには？



プロンプトを適切に入力する

- ▶ 指示（プロンプト）を「AIにとって」わかりやすく書くことが必須
 - 人同士なら伝わる「ニュアンス」はAIには理解不能
 - 「なんかいい感じに作って！」⇒AI「なにそれ」
- ▶ ✕ 「AIに関するレポート書いて！」
 - 何語で？どんな内容？どれくらいの長さ？
 - 指定がないとAIは勝手に作る=思ったものが出力されない
- ▶ AIは明確な「プロンプト」がないと何もできない
 - 逆に言えば、明確な指示があれば適切なものを作成する確率が上昇する



プロンプトの基本

- ▶ はっきりとした目的の設定
 - 何を達成したいか、何を作り出したいか
 - AIに「役割」を指示することも重要
- ▶ 詳細な指示と情報を与える
 - ✕ 「うどんのレシピを教えて」
 - ○ 「家庭で可能な釜玉うどんのアレンジレシピを提案して」
- ▶ 出力方法を指示する
 - 例えば「300字以内で」「箇条書きで」など
 - 目的とおなじくらい「どのように出力するか」も大事

理想的なプロンプトの骨格

- ▶ 目的（What）
- ▶ 背景・前提（Context）
- ▶ 出力物（Deliverable）
- ▶ 制約条件（Constraints）
- ▶ 入力変数（Variables/Placeholders）
- ▶ 期待する思考過程の指示（Reasoning Hints：検証・比較・手順化）
- ▶ 出力形式（Format：見出し・表・コード・JSON など）
- ▶ 品質チェック（Quality Gate：自己検証・反例チェック・参考基準）
- ▶ 口調・対象（Tone & Audience）
- ▶ 失敗時の挙動（Fallback：不明なら「不明」と言い、追加情報を列挙）



理想的なプロンプトの例

あなたは管理栄養士です。

目的は「2人分の新しい家庭料理レシピ」を作ること。

【前提】 家庭のキッチン。調理時間は30分以内。

【制約】 ①アレルギー：えび・かには不可 ②使いたい食材：鶏むね肉、ほうれん草 ③避けたい食材：牛肉

【出力】 見出し付きで、①料理名 ②1人分栄養目安（kcal/たんぱく質/脂質/炭水化物：概算で可） ③材料（分量） ④手順（番号で簡潔） ⑤コツと代替案（3点）

【品質チェック】最後に「時短の工夫」「洗い物を減らす工夫」を1文ずつ提案。不明点があれば最初に箇条書きで質問してから作成してください。

生成AIを使うために

- ▶ プロンプト（指示）を具体的に書く
 - 「ぼんやり」書いていると「ぼんやりした解答」
 - 想像している倍の量のプロンプトを書くこと
- ▶ 具体的にプロンプト（指示）を書くために
 - そもそも「自分自身」も知識をもっていないと書けない
 - 出力された回答が正しいか、正確かを判断できない
- ▶ AIに仕事を任せるためには、自分自身の学習も不可欠
 - ✕ AIに任せてラクをする
 - ○ AIと協働して、よりよい結果を出す



プロンプトの実践課題

- ▶ 課題：今日の晩御飯の献立を考えるプロンプトを作れ
 - 制約条件：①2人分を想定すること
 - ②主菜、副菜、汁物の2つ以上を採用すること
 - これ以外の条件は各自で設定して良い
 - 使用する生成AIは「ChatGPT」か「Google Gemini」
- ▶ 課題例
 - 実際に入力したプロンプト全文と、それに対してAIが生成した文章の両方を提出すること